

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお送りしております。

=====



◆ NEE Mail Magazine 132号 ◆

-----2020-1-8◆◇

2020年になりました。

今年はオリンピック・イヤーです。オリンピックの年にはアメリカの大統領選挙があります。また、うるう年でもあります。これだけそろると、もう一つ何かが起こりそうですが、どうせ起こるのであれば、プラスの出来事を期待したいものです。

学校は3学期。中高はまとめの時期に入ります。最後の大学入試センター試験もあります。大学は後期の授業が終わり、早いところでは入試が月末にははじまります。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【今月の内容】

【1】最新活動報告

19年12月の活動やニュースを報告します。

【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「授業でICTを導入する前に」

【イベントの案内】「先生のための経済教室」(沖縄)を開催します

■「先生のための経済教室」(沖縄)を開催します。

日時:2020年1月18日(土)

場所:沖縄県立図書館ビジネスルーム

内容:宮崎美喜男先生(都立国際高等学校)、河原和之先生(立命館大学他)、篠原総一代表の講演があります。

まだ会場に余裕があります。沖縄にお知り合いの先生がいらっしゃったら、お声をおかけください。

プログラムなど詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2020%20keizaikyoushitu/20200118%20Okinawa.pdf>

【 1 】最新活動報告

■「先生のための冬休み経済教室」(東京)を開催しました。

日時:2019年12月26日(木) 13時00分～17時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス東館8階東館ホール

主な内容:参加者 94名

主催者挨拶と共催の東京証券取引所の活動紹介が岡部ちはる氏からあった後、以下の問題提起、現場からの提案、討論が行なわれました。

第一部 問題提起

(1)シンポジウムの趣旨説明「新テストと授業改善 基本的な視点の整理」が新井(上智大学非常勤講師)より行なわれました。

(2)問題提起「新テストの出題意図を踏まえて取り組むべき中高の授業改善」が、大倉泰裕先生(千葉県立松戸向陽高等学校)からありました。大倉先生は、共通テストを巡る動向、最近のPISA調査の結果などを紹介した上で、学習指導要領と共通テストが求めている学力観の共通性を紹介、新テストの問題設定や実際の問題を提示して、授業改善の必要性を明らかにしました。

第二部 現場からの提案

(1)「高校入試の新動向と中学校における授業改善」が、李洪俊先生(大阪市立南港北中学校)よりありました。李先生は大阪部会での報告をもとに、高校入試の新動向を分析、事例を紹介しながら、中学校での授業改善の方向性を提案しました。

(2)「新テストに向けての授業づくりの試み」の報告が、杉浦光紀先生(東京都立井草高等学校)からありました。杉浦先生は、進学校において、新テストが求めている理解力・判断力・表現力の育成をいかにすすめるかを、主に論述に焦点を合わせて、通常の授業の活動、定期考査問題を紹介しながら、進学後の大学生活、社会生活まで視野に入れて提言しました。

(3)「新テストの理念を生かす授業改善の試み」の報告が、金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)からありました。金子先生は、新テストが求めている学力を育てるための教材づくりに関して、教材さがしの着目点、教材として教室で使えるまでの工夫、授業の結果の一連の流れを紹介して、非受験校(農業コース)での授業改善の具体例を提言しました。

第三部 討論

進行役の杉田孝之先生のもとで、基調報告者大倉泰裕先生、李洪俊先生、杉浦光紀先生、金子幹夫先生による討論が行なわれました。

討論では、授業改善とテスト問題の関連、参加型学習と理解力のつけ方、探究学習と単元の関係などが取り上げられ、新テストや高校入試の変化をふまえて、すべての校種での授業改善の必要性を確認しました。

最後に、総括として、篠原総一ネットワーク代表から、今回のシンポジウムはテストが変わってゆくのに対応した授業改善の一般的入り口であり、さらに経済分野に焦点をあわせた授業改善に関して「夏休みの経済教室」などで取組んでゆきたいという表明があり、盛況のうちにシンポジウムを終了しました。

教室の内容の詳細はまとまり次第 HP に掲載いたします。

■大阪部会(No.66)を開催しました。

日時:2019年12月7日(土) 18時00分~20時15分

場所:同志社大学 大阪サテライトキャンパス

主な内容:参加者17名

篠原代表の活動報告のほか、以下の報告と討論が行なわれました。

(1)李洪俊先生(大阪市立南港北中学校)から、「高校入試の新動向と中学校における授業改善」が報告されました。

前回部会で報告された入試問題の分析を、授業改善につなげるという観点から再構成したものです。この内容は、「冬休み経済教室」で報告されます。

(2)奥田修一郎先生(大阪教育大学等)から、新たな「公共財ゲーム」が3つ提案されました。

側溝の落ち葉掃除の場面、隣家との落ち葉掃除のお金をどう分担するかという場面、休日の余暇時間を消防活動という場面をそれぞれ設定しています。

奥田先生からは、皆が出し合ったお金がどの程度みんなの利益になるかによって結果が左右されることを確認するのもよいのではと提言がありました。

(3)山本雅康先生(奈良学園中学校高等学校)から、「消費者教育推進のための「社会への扉」活用研究授業」の内容が紹介され、成果が報告されました。

この研究授業は、消費者庁発行の「社会への扉」を活用したもので、家庭科(家庭基礎)の授業案と、公民科(現代社会)の授業案が紹介されました。

また、山本先生自らの「現代社会」の授業例での18歳成人を見据えた、消費者問題と消費者保護の学習プリントが配布、説明がありました。

(4)大塚雅之先生(三国丘高等学校)から、「行動経済学で考える労働の授業」

が報告されました。

前回部会での奥田先生の報告にも触発された授業案で、労働者の目線から、労働者はどのようなことを考え行動するのか、行動経済学の知見を活かして考えてみようとした授業です。

人間が必ずしも合理的ではないことを行動経済学の問題例を使って確認し、非合理性が残業の多さや女性差別につながる可能性があること理解した上で、働き方をより正しい方向に導くため手段をナッジから生徒自身に考えさせるという内容です。

(5)阿部哲久先生(広島大学附属中学校高等学校)から「見方・考え方」からつくる中学校公民的分野「経済・金融」の授業づくりー「希少性」で教育実習生の授業はどう変わったかーとの報告がありました。

新学習指導要領に「希少性」と「分業と交換」が加わったことで、経済の内容に関わる授業作りがしやすくなったという内容の報告で、実習生が作成した授業案も紹介されました。

(6)丹松美代志先生(大阪学びの会代表など)から、社会科NAVI(日本文教出版)が配布され、子ども自身が意欲をもって課題を追求し、自分の言葉で表現するような授業作りについて紹介されました。

(7)関本祐希先生(市岡高等学校)からは、地理および政治経済の授業プリントが配布され、年金の仕組みや利点欠点について、理解を確認するための課題が投げかけられましたが、今回は議論する時間がとれませんでした。

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka66report.pdf>

【 2 】定例部会のご案内・情報紹介

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会(No.114)を開催します

日時:2020年1月30日(木) 19時00分~21時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

■大阪部会(No.67)を開催します

日時:2020年2月1日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17 階

■札幌部会は春の経済教室として開催します(既報)

日時:2020年3月21日(土) 13時00分~17時00分

場所:キャリアバンク 職業訓練協会 教室

札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55ビル5階

チラシが出来上がり次第HPに掲載します。

<2月中旬からホームページが新しくなります>

前号でも予告をしましたが、現在ネットワークのHPのリニューアルを準備中です。

これまでネットワークの活動のなかで蓄積してきた、報告、授業案などを利用、検索しやすくするための改善に取り組んでいます。

またメールマガジンの配信アドレスがそれに伴って今回の info@econ-edu.net からに変更となりますので、迷惑メールフィルターにかからないように登録していただいている先生方はアドレスの変更もよろしく願いいたします。

【3】授業のヒント「授業でICTを導入する前に」

筆者は、携帯を持たないことを公言しているアナログ人間ですが、それでも大学の授業ではパワーポイントを使って行なっています。また、本年度非常勤で出校した高校の授業では、大学方式でパワーポイントとプリントを併用した授業を試みました。

今、授業づくりにICTを活用することが促進されています。特に、アクティブ・ラーニングの実現と絡んで、その動きはますます進行しています。

今回は、そんななかで筆者の体験した最近の事例から考えてみたいと思います。

(1)二つの風景

高校での風景。裁判をテーマとした授業でパソコンからDVDで映像を流そうとしたら映像が出てこない。プロジェクターとの接続が悪いのか、DVDとパソコンの相性が悪いのか、自宅で準備をしていたときには問題がなかったのにどうしよう。この時は、助けてくれる生徒がでて、なんとか映像が流れたが、この種のトラブルは多いはず。

大学での風景。教職講座の模擬授業。YouTubeから映像を流そうとした学生さん。ところが教室の環境設定が外部情報を入れることになっていなかったため、授業がストップ。学生さんは立ち往生。

この時は、一人の学生が「みんなスマホを持っているでしょうから、それを出して指定の映像を見たら」と提案して、なんとか乗り切りました。

(2)プレゼンテーションか授業か

ICTは小学校の調べ学習ではかなり導入されていて、活用されています。それに

くらべて中高ではまだまだです。

まだまだだから、促進すべきというのが情報教育の立場でしょうが、ちょっと待てよという冷静さも同時に必要ではないでしょうか。多角的・多面的な考察です。

まずは、ICT が活用できる環境設定、ハード面での整備が必要です。大学ではかなりの教室がその対応で改造されてきていますが、中高ではこれからの課題のところが多いはずで

す。ハードの面とは別に、ソフト面での活用方法には大きな課題があります。それは、十分にICT の特質を活用出来ないという形だけの進化という事になりかねないからです。

一番利用されていると思われるパワーポイントをあげてみます。

筆者が高校で一年使った反省は、プレゼンテーションになってしまうということです。それはある意味当たり前で、パワーポイントがプレゼンテーションソフトだからですが、授業がプレゼンテーションになってしまうと、生徒はてきめんに頭を働かせなくなります。

特に、一枚に内容がまとめられているページでは、一つ一つの事柄の意味を考えるのではなく、全体として映像になってしまっているようです。これでは、「主体的でもなく、対話的でもなく、活動的でもない」授業にしかありません。

(3)ICT 活用方向

こんな失敗を通してやっと学んだのは、ICT の持ち味を生かした授業をするしかないということです。

では持ち味とはなにか。

一つは、導入のための素材提供になるでしょう。

写真を見せてそこから何かを発見させる。クイズ方式でテーマに導入するなど得意なはずで

す。グラフを動かす、グラフを作成させ投影するなど得意でしょう。

二つ目は、調べ学習の道具です。先の大学での「みんなスマホを持っているでしょう」という提案がハード面の障害をクリアするヒントになるかもしれません。

ただし、これは劇薬でもありますが。

冬の経済教室で、大倉先生が、生徒たちがスマホに執着するのは驚くくらいで、志望動機もスマホで打ってくるというエピソードを紹介していました。

中学校はまだ難しいでしょうが、高校なら、今や生徒が持っているスマホを活用するという手もあります。

三つ目は、プレゼンテーションとして活用する。これは、YouTuber があこがれの職業になっている現在では、プレゼン資料をICT で作成させれば教師以上のレベルのものが登場することは間違いありません。

(4)読解力、思考力・判断力とICT

教育のなかで一番求められていて、一番難しい領域です。

この部分だけは、ICTでも勝てないのではと思います。

文章を読むとき、ディスプレイ上で読む時と、紙ベースで読む時はどちらがしっかり読んでいるか、みなさんも振り返れば明かではないでしょうか。

筆者は、ネット上の文章でも、本当に腰を据えて読むときにはプリントアウトして線をひきながら読みます。授業も同じかも知れません。

いずれにしても、デジタルとアナログの特質をいかしながら、時代に合わせた授業を工夫してゆくのが一番という平凡な結論になりましたが、時代の流れのなかで主体的に授業をすすめるためにはこのあたりが適当なのかもしれません。

ちなみに、これはメルマガ上の文章なので、読み飛ばされる運命かな。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

「冬休み経済教室」に参加して思ったこと。質問や意見が少ない。これは「夏休み経済教室」でも同じ傾向です。ひょっとすると、「主体的で、対話的な深い学習」が必要なのは生徒ではなく、先生たちなのかもしれないなどと、少々フドキな感想をいいてしまいました。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

◆◇

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

=====
(C) Network for Economic Education ◆◇